

## 自己主張期の幼児に対する母親の育児行動

きょうだいの育児経験が引き起こす親の育児行動の対象化

竹尾和子<sup>1</sup>・渡部朗代<sup>2</sup>

(<sup>1</sup> 東京理科大学理学部第一部・<sup>2</sup> 白百合女子大学大学院文学研究科)

### 目的

本研究は2歳前後の幼児とその母親を対象に、幼児の自己制御機能と母親の応答性の共同発達過程について、インタビュー、参与観察、実験を併用した縦断研究を通して明らかにすることを目指している。本縦断調査における第一回目のインタビュー調査では、対象児の特徴や母親の育児態度、及び、その背景をなすと考えられる家族構成や母親の育児経験や価値観などについて幅広く語ってもらった。本発表では、第一回インタビューにおける母親の語りから明らかにされた、子どもの自己主張・自己抑制行動とそれをめぐる母親の育児態度の規定要因について報告する。

### 方法

**【調査対象者】** 幼児(年齢平均値 24.4ヶ月、標準偏差 2.45、うち男児 5名、女児 4名)とその母親 9組。対象児が第一子は3組、第二子は3組、第三子は2組、第四子は1組で、いずれも末子にあたる。

**【調査方法・内容】** 各家庭へ訪問し、母親へのインタビューと母子への実験を縦断的に実施している。本発表では第一回インタビューでの母親の語りについて報告する。

**【分析方法】** グラウンデッド・セオリー法(Strauss, A., & Corbin, J., 1998)に基づき、各事例における概念の立ち上げから包括的な理論を構築し、構築された理論から母親の語りを整理した。

### 結果と考察

**【子どもの自己主張・自己抑制と母親の応答性とその背景】** インタビューにおける母親の語りから、子どもの自己主張の行動とそれに対する母親の受容的応答性が典型的な親子関係のパターンとして見出された。自身の育児行動の理由として、9人中6人の母親が、「注意しても聞かない」「注意するとますます騒ぐ」と語るなど、対象児の年齢特有の特徴を理解していた(表1の「対象児の反応を踏まえて」)。また、子どもの特徴や母親自身の育児行動への理解の枠組みとして、対象児にきょうだいがいる母親のほとんどが、きょうだいの特徴やきょうだいへの育児行動を参照していた。これらの母親がきょうだいへの育児に比べて対象児への育児の方が「余裕がある」と語ったことも含め、きょうだいへの育児が母親の対象児への理解や関わり方に関与していることが示された。

**【きょうだいの育児経験が及ぼす影響】** 更に、対象児にきょうだいのいる母親の語りから、そのきょうだい数によって質的に異なることが示された。表1では、きょうだい数が多い母親ほど「兄弟への育児の経験を踏まえて意識的にコントロール」に言及していた(4ケース)。これら4ケースの母親の語り(表2)を見ると、対象児が第3子、第4子の母親は、きょうだいが幼児であったときの自身の育児のあり方を、そのきょうだいの今の様子を参照しながら、対象化し意味づけ、現対象児への育児行動を調整するといった、「自身の育児行動および育児行動の子どもへの影響」をセットにした形での育児行動の対象化が見られた。

表1 インタビューにおける母親の語り/各概念への言及の有無

	第一子 N=3	第二子 N=3	第三子 N=3	第四子 N=3
子どもの 行動や特徴	自己主張的	3	3	2
	自己抑制的	2	1	
子どもの 行動や特徴の 理解の枠組み	きょうだいとの比較		3	2
	友だちとの比較	3	1	1
	育児書との比較			
母親の 育児行動	夫婦関係を踏まえて	2		
	受容	3	3	2
母親の 育児行動の 理解の枠組み	拒否	1		2
	対象児の反応を踏まえて 「注意しても聞かない」等	2	2	1
	きょうだいへの 育児と比較		3	2
	きょうだいへの育児より 「余裕がある」		3	2
	きょうだいへの育児経験を 踏まえ現育児行動を調整		1	2
	個人史を参照	2		
夫婦関係を踏まえて	1			1

表2 「きょうだいへの養育経験を踏まえ現養育行動を調整」と回答した人(4名)の語り

第二子	上の子は初めてだったのでいっぱいいい状態・・・それを反省しつつ、生かしつつ、今はまだ怒らなくていいのかなとか、ここはやっぱり怒っていた方がいいのかなとか。 (上の子は)よわよわ(弱い)だったので、今でも自分がないような気がする・・・こうやって育てちゃったんだなって・・・なんでも聞きなさいって私が仕切っちゃったから、それはよくないかなって思っ...(対象児には)ちょっとは強い子になってほしいなというのがあって、多少(対象児が)何か言っても、我が強くても、多少大目には見ている。
第三子	(対象児には)寛大になります・・・最初してあげればよかったなと思います、長男に。不憫なことしたな、と。やはり怒りすぎたかな、私のせいかなとか本当に悩んで・・・(長男には)注意しちゃいますよね・・・片づけるのが面倒だからって理由で、これはやっちゃダメ、あれはやっちゃダメって言ってきたんだですけれど結果それであの子がそうなった(神経質でチックが出たことがあると語っていた)かどうかは今では謎なんですよ。
第四子	大きくなった子供たちを見て、ちゃんと自分で挨拶できなかったりとか・・・もっとうすればよかったなって上の子を見て反省しているところが今あるので・・・(対象児には)あまり手を出さない方がいいんだなってわかった・・・まっけてあげるのも大事なんだなって。

付記：本研究は科学研究費補助金(代表者：竹尾、課題番号 21730527)を受けて行われた。